

右兵部大丞大原真人今城

〔菅家文草詩〕五十月二十一日禁中初雪應製一扶

推歩四時令不違初開六出報重闌地因高霽看何易天未全寒想更非粧妓自疑顏粉落宿醒偏誤眼

花飛今朝且揖如雲瑞先滅唯緣近日輝

〔二水記〕永正十四年十一月廿一日雪初降參内御盃參女中伯等例年之儀也各沈醉了十七年十

一月十九日早旦參當番初雪御盃如例伯三位依歡樂不候各沈醉不可説也

〔北越雪譜初編上〕初雪 江戸には雪の降ざる年もあれば初雪はことさらに美賞し雪見の船に

歌妓を携へ雪の茶の湯に賓客を招き青樓は雪を居續の媒となし酒亭は雪を來客の嘉瑞とな

す雪の爲に種々の遊樂をなす事故擧がたし雪を賞するの甚しきは繁花の去からしむる所也

雪國の人これを見これを聞て羨ざるはなし我國後の初雪を以てこれに比れば樂と苦と雲

泥のあがひ也そも越後國は北方の陰地なれども一國の内陰陽を前後すいかんとなれば

天は西北にたらずゆるるに西北を陰とし地は東南に足すゆるるに東南を陽とす越後の地勢は西

北は大海に對して陽氣也東南は高山連りて陰氣也ゆるるに西北の郡村は雪淺く東南の諸邑は

雪深し是陰陽の前後去たるに似たり我住魚沼郡東南の陰地にして卷機山苗場山八海山牛が

嶽金城山駒が嶽兔が嶽淺草山等の高山其餘他國に聞えざる山々波濤のごとく東南に連り大

小の河々も縦横をなし陰氣充滿して雲深き山間の村落なれば雪の深を去るべし冬は日雨の

北國はます寒し家の内といへども北は寒く南はあたかなると同じ道理也我國初雪を視る事遅と速とは其年の氣運寒暖につ

れて均からずといへどもおよそ初雪は九月の末十月の首にあり我國の雪は鷲毛をなさず降

時はかならず粉碎をなす風又これを助く故に一晝夜に積所六七尺より一丈に至る時もあり

往古より今年にいたるまで此雪此國に降ざる事なしされば暖國の人のごとく初雪を觀て吟